



深小っ子だより

こころざし高く
思いやりのある
深小っ子の育成

特別号
R5.11.6 発行

「学びに向かう力」の育成を

日頃より、本校の教育活動に対してご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、毎月発行しております「深小っ子だより」ですが、今回は特別号として、本校の子供たちの学力についてお知らせいたします。

4月18日に6年生が「全国学力・学習状況調査」を、5月10日に4・5・6年生が「埼玉県学力・学習状況調査」を実施しました。その2つの学力・学習状況調査の結果がまとまりましたので、結果の概要をお伝えいたします。深谷小学校では、本調査結果を日々の授業改善に生かしてまいりますので、今後ともご家庭における学力向上の取組にお力添えいただきますようお願い申し上げます。

なお、質問紙調査の結果は、本校のホームページで公開しておりますのでそちらをご覧ください。

全国学力・学習状況調査

平均正答率 単位(%)

教科	国語	算数
深谷小	同等	同等
埼玉県	68	62
全国	67.2	62.5

国語では「書くこと」、算数では「図形」領域の平均正答率が、県や全国よりやや下回っています。

「よかった点(○)」と「課題(●)」

【国語】

○「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」の問題で、全国や県の正答率を大きく上回った。

●「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」の問題の正答率が低かった。

【算数】

○「百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる」「伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる」の問題で、全国や県の正答率を大きく上回った。

●「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」「(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる」の問題の正答率が低かった。

課題への取組・改善策

【国語】

・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるようにするために、図表やグラフの特徴や優れている点などについて、他教科と関連して指導していく。また、教師が図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示したり、図表を用いる場合には、本文に「図1は、～」、「表1は、～」といった表現を用いて本文との関連を示すことを指導したりしていく。

・漢字指導においては、書き取りの練習のみならず、文や文章の中で漢字を読むことや文脈の中での意味と結び付けていくことを繰り返し指導していく。また、「意外」、「以外」などの同音異義語の言葉を集めたり、漢字辞典を使って漢字の読みや意味などを自分で調べる活動を積極的に取り入れたりして、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにしていく。

【算数】

・三角形の面積を指導する際、一つの面積を求めることに限らず、二つの三角形の面積を比べる活動を取り入れていく。その中で、二つの三角形の底辺の長さが等しいとき、高さの具体的な長さが分からなくても、高さが等しいと分かれば面積は等しいと実感を持って理解できるように指導していく。

・わり算の筆算を指導する際、筆算の手順を形式的に教え込むのではなく、具体物や図に表したり、式と関連付けたりすることで、筆算の仕組みをしっかりと理解できるようにする。

埼玉県学力・学習状況調査

平均正答率 単位(%)

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
深谷小	上回った	同等	同等	上回った	上回った	同等
埼玉県	63.6	62.7	60.8	63.9	63.0	56.5

学力レベル(平均)

教科	国語			算数			学年	学力のレベル
	小4	小5	小6	小4	小5	小6	小学校4年生	レベル1～レベル7
深谷小	6-B	7-C	7-B	5-B	6-B	6-B	小学校5年生	レベル2～レベル8
埼玉県	6-C	7-C	7-B	5-C	6-C	6-B	小学校6年生	レベル3～レベル9

※学力のレベルは、各学年7レベルの間で行います。1つのレベルをさらに3分割し、上から順にA,B,Cで表しています。

一人一人をより伸ばすための取組

・チャレンジタイムで行っている「学力向上プロジェクト」問題へ取り組み、一人一人の学習内容の定着度を見極め、できるようになるまで繰り返し取り組んでいく。

・平均正答率の低い問題については、県が作成している「復習シート」を授業や家庭学習等で活用し、学習内容の定着を図っていく。

・算数では、学力レベルにばらつきがあるため、T.T(ティームティーチング)や少人数指導を工夫し、個に応じた支援の充実を図っていく。

・授業や家庭でのタブレットの使用頻度を高め、使用場面や使用アプリを考え、効果的に活用した学びを推進していく。

▼「復習シート」へのリンクです。

